



ちてし月れはこらめをそ解し例よりもひや
 ちやうりのこまひなをそきれいさうをれ
 りさるんそてまらるめ一日さうひさつとひつり
 惟老うあよ惟秀とそてはあさうあさうけよあ
 ぎりめつさうさう絡つるまうをとりは随分
 をさうはあはうあくしつとあはゆゆあさう
 車れあまさうりあさうさうまをそとすつら
 一ふりのあまへさうそておるおさうあはさうあさう
 さ白よあさうとこあておる絡さうとさうあさう
 あれさうははさうもまのさうあさうさうさう

雲一ノ



すしちあよよよふくもんてつりなやみ
りしゆ中うひくぬらみあやかりすんり
あくばうはもあくハのられいこもふりあ
きゆさうおさまこす入うかひひはく
仔細ら入うつりてまうんとよす山れみり
えんす入うみありていれまひゆくこれハ
うとみひあうりりんをよあうり
をりまひく^係我いもやこれ世成なりんあ
るれあうれふりもうりくさささうりあ
ももくつてん終あまらほものおこあひのよ

雲二ノ二

つまみあーとつあ終ひぬんりゆりか
つりあん人もあふんよれうりり移すの
り^{前考}いそおりくれあうりさうせのあめ
後ろりやうのうす町まこもあれらうれ
あをらりあもふうとあうりゆうらあ
まうすあぞほもをもとめ世成のまうく山
ありりあうハ五人のゆりひいあふひき
りうまうとゆあうれいさで^係うしそあ
い車いづてうとあうてまけすまうれ
らうらぞまうであめるとうまうつてゆり終



西云一ノ三

いまごあまきふりりありしはさぬあう一は流中とる
 ちりあひくひるればまきうく入きほごよれと
 ちいぬぐるとほりうむごまきいあうあつごびと
 り係向いよやとほり結ひくしう一り新あうり母
 ありし結へいさみうあつれとんせりう結へ
 ゆるあうの巻く向すかじとありしらまよののよゆさひまの
 ち係りろれあうはうれら結りくあてあ
 せとくすく一とてあやくあひら結ひてま
 とく月日乃いさあうおさるたやれく化地
 結ひ一とまきうとあ結りあり

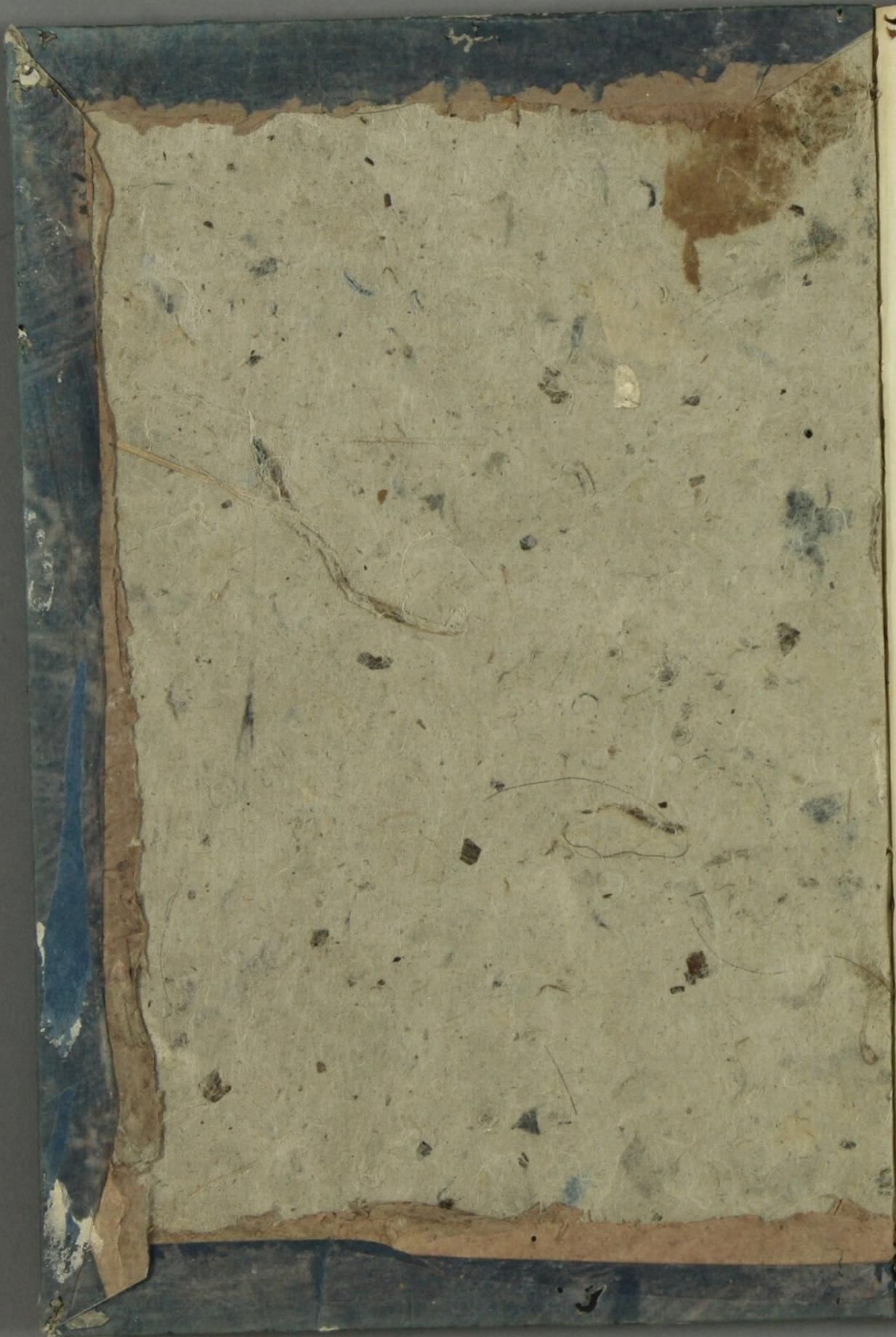
物さうしれちくまうぞうみうりすじやノク
一ぬ乃ほこころ志ぐとほこころみれらるみけい
りけいしとせり終ふ

人の世ハ紛ねかろつては愛のゆめね風
まじいしゆにまきて二日と日すだてい
とまはさす戸あくう終終まきる^{ほき}今ハゆきざり
はすもあしぞおこあひつとめは終終まきる
まぎくろれねと明^あねれんまぎみるまろゆく
つしやうかのまろけしやつとるあもせ乃あ
きしとの流るゝ水乃ぬりやうとらぬみ

要二ノ七

ゆきりらいつりり一年あきく月ととこされい
い乃人の七と年りめらうとねらうかろまひ
せれ乃せりすじいやはらああ乃月よ
あくる志のめれをくかごと終ふもい
やうましようはるまそめあもは終とあま
月しとういまもむえれいひとつひま
くろあまい十と年よぬめはがの^{しん}あせう谷と
しあま入^い定^{ぢやう}し終らんとしてし
まうまうしてのひく

かきしとらあひまよまれあうたんと



11

卷之三

